

**第3回 県立都市公園のあり方検討会 明石公園部会
議事要旨**

1 日時 令和4年8月17日（水）10:00～17:00

2 場所 明石市役所議会棟2階 大会議室

3 出席委員

高田部会長、嶽山副部会長、上町委員、村上委員、河本委員代理、檜原委員、兼光委員、小林委員、泉委員、中務委員

4 ヒアリングのテーマ

- (1) 陸上競技場（きしろスタジアム）の改修
- (2) 第一野球場（トーカロ球場）の改修
- (3) 子どもの村のインクルーシブ遊具の整備

5 議事要旨

ヒアリング参加者より意見発表があった後、委員等との意見交換を行った。
各発表の要旨は以下のとおり。

(1) 藤井 一重（明石市グラウンド・ゴルフ協会） 明石市

テーマ：陸上競技場（きしろスタジアム）の改修

- ・当協会としては、これまで10年ほどグラウンド・ゴルフの大会の場として、陸上競技場の芝生を利用してきた。
- ・明石公園の競技場の魅力については、芝生のグラウンドであることや、地理的に交通の便が非常によいということが挙げられる。
- ・8ホールの4コースがとれる。コートがきれいだし、周囲の方にとっては使い勝手がいい。
- ・全国的な大会を兵庫県に持ってくると、興味を示して大会に出る人が増えると思う。
- ・現在、桜の苗木の関係で、補助競技場がグラウンド・ゴルフには使えないため、使えるようにしていただきたい。

(2) 信近 清志（明石市陸上競技会） 明石市

テーマ：陸上競技場（きしろスタジアム）の改修

- ・陸上競技をこどもの頃からしている者としては、明石の陸上競技は聖地のような場所。
- ・明石公園陸上競技場は2023年3月31日で、公認競技場としての資格が失効され

る。日本陸連への働きかけを行い、コロナ対応等による財政難を考慮して、2023年度中に競技場を改修する計画が決定している場合は、2023年度中の1年に限り公認競技会として実施した大会は記録を公認するという特例措置を頂いている。改修の計画を早期に立案、また、工事を早期に実施して頂きたい。

- ・公認大会を長く継続していけるような施設を望みたい。最低限、レーン幅の改修と写真判定機の更新は行ってほしい。
- ・施設自体や附帯設備も、県民に愛され、安全で安心なものに整備しなければならない。
- ・地球温暖化が進む中、環境や利用者に優しい競技場であるために、フィールド天然芝（人工芝では周囲の温度が上昇）の継続や、全天候舗装をブルートラックに変更等も考えられる（加古川にもあるが、見た目も涼しく、表面温度が違う。）このように、使い勝手のいい優しいものになればと思う。
- ・競技場のよいところは、お城が見える、緑がある、交通の利便性ということである。

（3）木下 裕一 明石市

テーマ：第一野球場（トーカロ球場）の改修

- ・明石球場のグラウンドはすばらしく、芝生は甲子園よりきれいだと言われている。芝生の上にラインが書いてあるので、ボールが変化しないことや、水はけがすばらしい。
- ・スタンドは、雨漏りなどがあり、最低に近い。また、スタンドが小さ過ぎるし、観客の出入りに危険が伴うので、高校野球の準決勝と決勝ができない。
- ・改修のポイントは、雨漏りとスタンドの改修のほか、グラウンドを整備する車が入れるようにすること。
- ・現状では車椅子の方が観戦するのは難しいため、そのようなスペースや、木陰の環境をつくってはどうか。

（4）長江 卓哉、奥野 俊博、田中 葉子（日本野鳥の会ひょうご） 神戸市

テーマ：子どもの村のインクルーシブ遊具の整備

- ・明石公園の特徴は、駅に近い平地の市街地にありながら自然が豊かでこのような場所は非常に珍しく、当会は探鳥会や市民を対象とした野鳥観察会の場所として利用している。
- ・一般市民と会員を対象とした探鳥会では、通常50人程度、多い時には100人以上の参加がある。
- ・木の伐採で数十本切ってしまうということだが、明石公園は森に生息する小鳥類が非常に多く、観察できる場所。そういう環境を活かして遊具の設置を考えてほしい。

- ・駐車場から遠い場所に設置するということが、仲よし広場など、駐車場近くに作ってはどうか。子どもの村周辺は自然観察の場や、鳥をとおした環境教育の場として使っていただけたらと考えている。
- ・樹木の管理は伐採ではなく、剪定の範囲内で実施してほしい。
- ・樹木伐採がまだ少なかった2005年から2006年にかけて、一年間鳥類調査を実施したことがある。その記録と現在の状況を比較するために、2005年と同様に今年度も月に2回調査を実施している。「子どもの村」とその周辺の樹林には渡り途中の小鳥類が中継地として利用していたり、シジュウカラ、ヤマガラ、メジロ、コゲラ、エナガなど山野の鳥が繁殖場所として生息していることが確認されている。
- ・これ以上の樹木伐採を避けて、自然と人が共存している場所として維持することを望む。

(5) 柿原 辰郎 明石市

テーマ：陸上競技場（きしろスタジアム）の改修

第一野球場（トーカロ球場）の改修

子どもの村のインクルーシブ遊具の整備

- ・10か所の出入り口を確認したが、でこぼこだらけで、車椅子の方にはしんどい。
- ・役所の言葉は、サウンディング、PFIなど分かりにくいのが多いので、言葉遣いも検討してほしい
- ・公園の利用者層等を把握したデータが必要。
- ・石垣のライトアップのためのコンクリートブロックがむき出しになっているのは見苦しい。公園協会として、文化庁に対して、埋設するために掘らせてほしいと交渉してはどうか。
- ・管理と運営は違うと提起したい。身障者や年寄りのイベントなど運営面が弱い。
- ・金を使わないで、住民参加を基本に企画できることがあるはず。城というロケーションの中で企画力が弱い。

(6) 矢方 久美、丸谷 聡子（(一社)のはらくらぶ） 明石市

テーマ：子どもの村のインクルーシブ遊具の整備

- ・明石公園は、交通の便もよく、植物、野鳥、昆虫などの切り口から多様な環境学習ができるフィールドで、障害のあるなしに関わらず、五感を使って自然に触れ合う遊びや体験を行っている。
- ・先日の夜の親子観察会では、セミの羽化を優しく見守る姿が印象的だった。子どもの村では、カブトムシをはじめ、様々な希少種に出会えた。
- ・子どもの村は、人工物が少ないからこそできる、身近な自然に触れて楽しむエリアにしてほしい。インクルーシブ遊具を置くのなら、トイレや車椅子移動などア

クセス面から考えても、明石駅や駐車場の近くに整備するのが良いと思う。

- ・さまざまな生き物がくらしていることを子ども自身が発見し、大切さを感じることが出来る場所なので、今ある自然を生かした整備や仕組みづくりを行ってほしい。
- ・トイレの整備やアクセスを考えないと、遊具を利用しないのではないか。使い勝手も含めて、全体的な整備を考えなければならないと思う。
- ・環境調査をして適切な整備をすることが必要で、安全面での樹木剪定に留めてほしい。
- ・子どもの村のイメージはプレーパークで、水遊びや泥遊びのほか、火も使えるようにしてはどうか。作り替えることができる手づくりの遊具がいいのではないか。

(7) 奥津 晶彦 神戸市西区

テーマ：子どもの村のインクルーシブ遊具の整備

- ・インクルーシブ遊具を設置するために伐採するとしているが、どの木を切るのかという選択が大事になるので、有識者の意見を聞いて進めてほしい。
- ・公園には、剪定した木で子どもたちに遊んでもらう場所や、自然観察に対する感性を育む場所が必要であると思う。
- ・車椅子が通る場所にはコンクリートを入れると思うが、水が浸透する素材を使うなどの配慮もしてほしい。
- ・1回失った自然は、2度と戻らないかもしれないので、慎重に進めるよう求める。
- ・希少種を守るためには、普通種も木も菌類も守らなければならないということにも配慮してほしい。
- ・周りの木を切ることで植物の葉の成長速度が変わるため、その辺も専門家の話を聞いて進めてほしい。
- ・昆虫に関するデータはメモ程度のため、整理する必要がある。

(8) 渋谷 進 神戸市西区

テーマ：子どもの村のインクルーシブ遊具の整備

- ・インクルーシブ遊具の設置に反対するものではないが、設置場所の変更をお願いしたい。
- ・現在想定されている場所ではなく、遊具は別の場所に設置すれば、子どもから大人まで楽しめる2つの村ができる。このほうが公園のアップグレードになる。
- ・子どもの村で事前の測量調査に関する張り紙があり、8月10日付なのに、文面は「新緑の侯」で始まっていた。検討会の委員の方はこのことを知っていたのか。県はこれまで「反省している」と何度か言いながら、まだ、こんなことをする。これを見て県に不信感を抱いた。

- ・情報共有はあってしかるべきだ。その上で議論しなければならない。
- ・ここで議論しても、県側が「県の方針とは違うので、県が独自にこう進める」と言われたら、公開ヒアリングは何のためだったのかということになる。それは避けてほしい。

(9) 本間 明子 神戸市西区

テーマ：陸上競技場（きしろスタジアム）の改修

- ・陸上競技場を存続してほしい。
- ・子どもの体力低下がすごく問われているので、陸上競技場を使ってイベントやスポーツができればよい。
- ・200円という利用料はありがたいが、それで陸上競技場を存続できるのかが心配。大人の料金は値上げしてもよいのではないか。
- ・公認記録の競技場は数年で更新が必要だが、3種でよいので、公認が取れるようにしてほしい。
- ・交通の便など立地がよいので、よそからも来やすい。来ていただいてお金を落としてもらえると、そういう経済効果もある。
- ・子どものイベントについては、コロナ禍で減っているが、それなりにやっている。

(10) 和田 太郎 明石市

テーマ：子どもの村のインクルーシブ遊具の整備

- ・瀬戸内海は、土を収奪してきたという土地柄がある。
- ・照葉樹があるという土壌環境を残してほしい。
- ・外堀にカワウがいるが、淡路では、天皇陵を剪定したらカワウやサギが来て、半分ぐらいは枯れてしまった。カワウを夏場のうちに追っ払う必要がある。
- ・張り出している枝を剪定すればカモもいなくなるということも考えなければならない。
- ・虫よけになるセンダンの木にアオバズクが来るが、センダンが切られるのではないかと気になっている。
- ・これから、どういうものが枯れて、どういうものが残っていくかということ。それも考えて対応してほしい。
- ・トンネルや素掘りの溝の回廊、落ち葉の堆積地など、土の状態を学ぶ屋外展示で土について知る機会が必要。

(11) 中嶋 美貴（明石市肢体不自由児者父母の会） 明石市 ※欠席（事務局代読）

テーマ：子どもの村のインクルーシブ遊具の整備

- ・インクルーシブ遊具が設置され、障がい児を含め、子どもたち同士が触れ合える

ことはよいこと。

- ・北駐車場から少し遠いことと、トイレが一箇所やや設備不足ではないかということが気になる。多目的トイレとベッドの設置を望む。
- ・休憩できる場所や水分補給ができる場所を増やすのもよいのではないか。
- ・現在は大きな木が陰を作っている。整備の都合上、伐採はやむを得ないかもしれないが、極力残してほしい。
- ・保護者の付き添いが必須なので、遊具間のスペースは余裕を持たせてほしい。
- ・数年間も使えなくなっている遊具もあるので、早期整備を望む。

(12) 飯塚 由美子 (明石市立ゆりかご園) 明石市 ※欠席 (事務局代読)

浅原 奈緒子 (明石市立あおぞら園) 明石市

テーマ：子どもの村のインクルーシブ遊具の整備

- ・障がい児の特性を考え、楽しく遊んでもらう工夫は難しい課題だが、障がい児は、ほかの子どもと遊ぶ機会がない。偏見なく、安全・安心に、親も一緒に遊べる遊具を準備してほしい。

(13) 末永 忍 (牧羊幼稚園) 明石市 ※欠席 (事務局代読)

テーマ：子どもの村のインクルーシブ遊具の整備

- ・年数の経過とともに、修繕や社会状況に合わせた整備が必要。
- ・今回のインクルーシブ遊具は様々な子どもに対応できるもの。
- ・29本の伐採については、安全に使えるスペースの確保と日陰も重要な要素なので、どの木を切るのか、位置などを再検討してほしい。

(14) 丸谷 聡子 明石市

テーマ：子どもの村のインクルーシブ遊具の整備

- ・こども広場や市民図書館の跡地など車椅子や車でアクセスしやすい場所に設置すべき。
- ・まずは、子どもの村を含めた明石公園全体の自然環境調査、データ収集をしてエビデンスを明らかにしてから議論すべき。
- ・生物多様性を損なう樹木伐採は中止し、世田谷区のような合意形成の仕組みをつくってほしい。
- ・子どもの村は、明石公園の豊かな自然に触れて学べる環境学習や自然体験の場、森のようちえんのフィールドなどとして使えるような整備を望む。
- ・子どもや障がい当事者の声を聞くことが大切。
- ・子どもたちの感性 (センスオブワンダー) や生きる力を育む場所にする方法として、例えば、プレーパークのような発想での整備はどうか。これこそがインクルーシブ。ありきたりの遊具の整備ではなく、柔軟な発想で明石公園の自然を生か

した未来を創造してほしい。関西のプレーパークの拠点にするのも面白い。プレーパークのネットワークで協力してもらうことも可能だと思うが、どう支援していくか、その仕組みをつくるべき。

- ・環境教育センターなどをつくって、レンジャーを配置し、いろんな活動や運営を担っていったらどうか。
- ・「今日から遊具更新工事に伴う事前調査をする」という張り紙があり、なんのために今、このような丁寧な取り組みをされているのか、その意味を理解されていない県の体質に呆れた。この場で説明をお願いしたい。

(15) 松本 誠（政策提言市民団体「市民自治あかし」） 明石市

テーマ：陸上競技場（きしろスタジアム）の改修

第一野球場（トーカロ球場）の改修

- ・明石市はこれまで「明石公園は県のもの」として市の主張を避けてきたが、市長が「みんなの公園」と発言されているのは心強い。
- ・伐採問題は幼少期からこの公園に親しんできた自分にとっては、身を切られる思い。公園は、市民の多くが自分の体の一部として親しんできたもので、明石公園は一種の「市民の森」とも言える。
- ・もっと森に包まれた施設になってほしい。森の中にたたく野球場と陸上競技場が、市民にとって望む姿だ。
- ・「競技場や野球場には歴史遺構があるので、将来的には競技場を廃止し発掘調査が必要だ」という県の考え方があるらしいが、歴史遺構を保護するためには、潰さず、発掘せず、大事な文化財が後世へ受け継がれていくのが一番いい。自然豊かな状態を保つため、このまま運動施設を置いておくというふうに考え方を改めてほしい。
- ・陸上競技場と野球場の存続方針を明確に打ち出すべきだ。
- ・施設の存続に関わる時間軸について、じっくり検討して共有してほしい。

(16) 四方 成之（明石市生涯当事者等団体連絡協議会） 明石市

テーマ：子どもの村のインクルーシブ遊具の整備

- ・インクルーシブ遊具検討について、加古川土木事務所からヒアリングを受けた時の計画図面が委員に配られていないのは違和感がある。
- ・明石公園全体としての整合性を考え、どう環境を整えるかといった点も含めて考えてほしい。
- ・教育や療育も含めた施設が明石公園にあれば、環境がいいし、自然に触れると子どもの能力が伸びるので、そのような使い方も考えてほしい。
- ・明石市立図書館跡地の利用計画等に、現在過密になっている県立いなみ野特別支援学校に代わる支援学校を考慮いただきたい。

- ・自転車競技場では、競輪選手会が障がい児を招いて、タンデムで走るなど、色々なことを行っているの、なくさないほうがよい。
- ・視覚障がい者がサポーターと一緒に遊べる遊具があればいい。
- ・給水設備が足りないほか、トイレが一番の問題。トイレに失敗したときに隠れられる施設や、障がい者用の駐車場が必要。

(17) 坪谷 令子 明石市

テーマ：子どもの村のインクルーシブ遊具の整備

- ・一般的に公園は、大きな広場と緑陰と遊具で成り立っている。明石公園の中の「子どもの村」の広場にはゾウやキリンをイメージしたカラフルな遊具が据えられていて、それには違和感を覚える。
- ・インクルーシブという概念からして、そこでは誰でも安心して自分らしく過ごせ、かけがえのない時空が生まれることが大事。明石公園の中にある「子どもの村」だからこそという遊具を使うことを通して、子どもの可能性や創造性を育てていく、そのようなインクルーシブな世界をつくるのが大事。
- ・遊具の設置についての要望は「地形を活かしてほしい」と「大人の恣意による意匠を、できるだけ排してほしい」と。
- ・広場の奥の「自然」と共存するために「緩斜面を利用する垂直の流れ」とともに「木々の間を縫う水平の流れ」、その両方で立体的に構成すると良い。遊具として、前者は滑り台や段梯子など。後者は平均台、雲梯、ブランコ、トンネル、登り棒、ロープや網などで繋ぐのはどうか。
- ・木材や布など自然素材による遊具が理想だが、力学・安全性やデザインの観点からプロの力を借りることも必要。
- ・「29本の樹木伐採が必要」と県の資料にあるが、計画段階なのに既に決定しているのか。

(18) 川尻 優 淡路市

テーマ：子どもの村のインクルーシブ遊具の整備

- ・公園利用者のASDへの理解が不可欠である。
- ・ASDに関する啓発用掲示があってもいいのではないか。
- ・安全対策としては、登る欲求を満たすため滑り台や築山などを用意することが考えられる。また、順番を守ることが難しい子どもへの配慮として、足形の目印や順番待ちのベンチを設けることや、飛び出し防止の柵を設置するのも有効。
- ・園路を明確にして誘導することによって、見失いの防止につながる。
- ・海外の文献では、言葉でやり取りができない子に対して、指で指して分かるようエリアを表示する看板の設計案がある（未施工）。
- ・大型遊具では動線が錯綜して危険が伴うので、遊び方が複雑過ぎない遊具を設置

するなどという手だても考えられる。

(19) 稲見 臣二 三木市

テーマ：陸上競技場（きしろスタジアム）の改修

- ・今回の改修について、共に楽しむスポーツという視点で考えると、将来に向かってわくわくしたものになるのではないか。
- ・多様な障がい、性、国籍、ジェンダーなどを組み合わせ、チームの中で話し合いながら、お互いの特性などを理解していくようなリレーを行いたい。
- ・ユニバーサルスポーツの聖地として、明石公園陸上競技場から、先駆的な取組を全国に発信できれば素晴らしい。
- ・ユニバーサルあるいはインクルーシブという概念を実現したい。
- ・共生社会の中で、誰もが使いやすいという視点が一番大切ではないか。
- ・明石公園は、交通の便やアクセスがよく、選手が自力で来ることができる。
- ・障がい者スポーツの指導者層を増やせるような取組が必要。

(20) 尾仲 正治 明石市

テーマ：陸上競技場（きしろスタジアム）の改修

第一野球場（トーカロ球場）の改修

子どもの村のインクルーシブ遊具の整備

- ・陸上競技場は、トイレが古い、障がい者への配慮がされていない、応援したくても中に入れない、電動車椅子でも入れない、お年寄りはつかまるところがないと歩けない。
- ・県や市には、ユニバーサル対応について考えてほしい。
- ・遊具があるところまで、子どもにとっては歩きにくいので、片道でもいいから整備してほしい。
- ・明石公園で段差が問題になるのは、入り口から、玉砂利を通過して野球場や競技場に行くところ、そして剛ノ池の辺り。県民が誰でも入れるような施設にしてほしい。
- ・特に、駐車場から野球場、剛ノ池の辺りは整備してほしい。
- ・みんなのトイレもいいが、障がい者用のトイレをいろんなところで充実してほしい。

以上